



6月号

平成3年6月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

「あ、巣に入った。」
校庭の巣箱の二センチの穴を見る。
窓からり出すように
シジユウカラの親子を見る丸の
目、目、目。

両手のピースを下に向け、
「ザリガニの鉄はピースじやなくて、
重くてたれ下がつちやうよ。」
鉢地川の泥んこ少年の反論。

「なお君の鉢、
ミニトマトが七つも芽を出しているよ。」
まだ、一つも芽の出ない子の
月曜日の大発見。

体全体で自然とかかわる子供たち。
そのたくましく豊かな好奇心と表現力に
私の忘れかけた感覚が耕される。

(初夏)



(チャレンジカーニバル「走れ 20人21脚」—本宿小)

教育隨想一

昨今・少數派



県立成章高校長 芳賀利行

四月、転勤の身となつた。素朴なしきたりにも手みやげというものがあるのに、君らは二十一世紀の門をくぐるのに何を手みやげにするのか。むのたけじ「たいまつ」より。始業式の冒頭に引用したまではよかつた。あとはびんびんの叱言に終始することとなつた。いつもの悔いである。

「今どきの若いものは」というのはどの時代にあっても、老成世代よりの嘆声かも知れない。太古のむかしとて同じだつたのではあるまい。そういえば、幾度となく投げつけられて、一面で首肯しつつも、それを育てたのは一体、誰だと反問気味に受けとめていた往時を思い出す。それが所をかえて、今や、対若者へちで我にかかる昨今である。

まこと、若い世代はだらしなくなつた。このままいけば途方もない心の貧しさや質的低下につながっていくのは、いよいよ濃厚である。しかし、それは若い世代に特有なというより、心の穏りを枯渇させていく扱い手の主流は依然として大人

登校の途次、知らん顔していく生徒を追つかけ、顔をのぞき込んでの「おはよう」の強要から、我が一日が始まる。集会時の遅滞、際限知らずの私語、しまりのない姿勢、果ては清掃時のおしゃべりタイム。時に高価な腕時計の落とし物にもなりは出す、陳列ケースは日、一日と豪華にたまるばかり。しかし、これは我が校のみの風景にあらず、挨拶や時間の約束に始まる生活習慣での未成立は、小学校から、中学・高校を通じての全国共通問題であることは間違いない。今年度版経済企画庁の国民生活指標が暗示するように、豊かで便利、平和な社会の到来が

筆による書写指導が重視されている。このことを、パソコンやワープロの発達で書写活動が減退している社会情勢に逆行するような改定ではないか、と思う人もいるかも知れない。しかし、文字を書くという行為は人間にしかできない行為である。したがって、その行為をすべて機械化してしまうと、一面には人間性が喪失されてしまう危惧がある。個性豊かにと呼ばれているが、その基盤である人間性が損われてしまつては、個性どころではないのではないか。

さて、重視される毛筆による書写の授業に、不得意ながらも果敢に挑戦されたS先生を紹介する。

恩師に義理立てし、避けて通れば、通れないこともない苦手なことに懸命に取り組む姿勢は、まさに「青は藍より出でて藍より青し」のことわざのごとく、師を超えた弟子そのものであった。「熱意をも

たち自身であり、ただ、その影響を最も尖銭に享受してしまうのが子供たちに他ならない。大仰だが、学校をあずかるものの悩みがこの辺にある。

二十一世紀をにらみつつ、中教審の答申が端的なかたちで迫るよう、「基礎基本や自己教育力の重視」に続く生徒急減期の基本理念が、今後、学校あげての具体化に向かって進んでいくのは必定にして、その受け皿としての家庭や地域さらには世の中全体の向背が、今、教育の方向がどんな反省に立ち、いかなる視点のもとに子供たちと向かい合つていくかの認識をどの程度持ち合わせているのか頼るわけではないが、それが実は「必要なかなあと」という感を深くする。だからと

出藍のほまれ

書写指導員
名倉 達也



このままいけば途方もない心の貧しさや質的低下につながっていくのは、いよいよ濃厚である。しかし、それは若い世代に特有なというより、心の穏りを枯渇させていく扱い手の主流は依然として大人

ふるさとシリーズ

この人に聞く



演劇

平岩 千尋 氏

六月一日から二日にかけて、ミュージカル「おれたちは天使じゃない」が、せきいホールで上演されている。これを演じている「岡崎演劇集団」の代表者である平岩千尋氏を養川町の自宅に訪ね、お話を聞いた。物静かな口調で、演劇の魅力や流れ、劇団運営の歩み、悩み、将来への希望などを語りてくれた。演劇との出会いは、学生時代のこと。

「物理を専攻していたので照明を頼まれたことがきっかけです。その後、岐阜で『郡上の立百姓』という作品を観て感動しましたね。地方のアマ劇団でも

岡崎にもこんな劇団があつたらしいな、と思うようになつたのですよ」
その気持ちが、現在の劇団を創設することにつながったと言われる。
「二十五年ほど前のことです。当時、岡崎には劇団がありませんでした。演劇活動が停止していました。そこで、愛知芸大演劇部のOB等が中心となって「岡崎演劇集団」と名を付けた劇団をつくったのです。岡崎の地に生き続けて欲しいという願いをこめて…」
練習は週三日。団員数は二十数名。年齢は十代から五十代までと広く、職業もさまざま。公演は年に二回。劇団運営についての悩みをお伺いすると、「団員の入れ替わりが激しく、技術的な積み重ねができないことです。それに、団員の多くは自分が楽しむために練習していますから…。アマとしてはそれでいいのですが、公演する以上はあまりへんなものを見せられませんかね。」

と答えられた。長年、きつぶ販売等の裏方で劇団を支えてきた方のことばだけに切実感が伝わってくる。しかし、観客の反応が肌で感じられた時には、そんな苦労は忘れてしまう魅力があるそうだ。

「公演はお祭りです。個性の強い人間同士が協力し合って一つの作品を創り上げる場です。だから、お客様が敏感に反応した時は、演じる方ものつきますね。『芝居は客が半分つくる』とい

ますね。『芝居は客が半分つくる』といいます、本当にです」

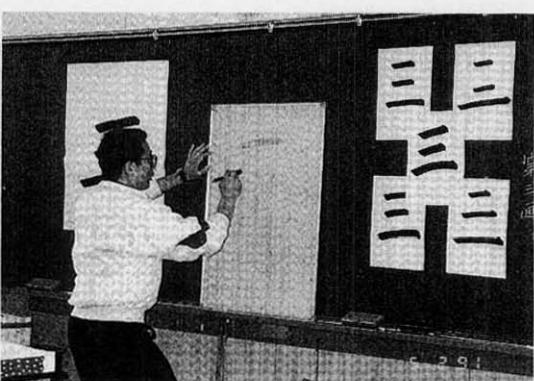


演劇に対する観客の反応は、昔と大きく変わっていること。

「昔は、新劇と呼ばれたように、考える芝居でした。しかし、今は違いますね。考えるよりも楽しもうという感覚です。岡崎では、まげ物やミュージカルが好きですね。これも風土ですか」と話される。そして、輝いた表情で、「これからは若い人を育てていきたい」と、自分の夢を語られる。そこには、岡崎の演劇とともに歩み、育ててこられた者の誇りを見ることができた。

「つてやれば、熱意が沸いてくる」ものであり、その熱意が子供たちを一段と成長させることができたと思われる。
学習過程も範書の腕前も今一步ではあつたが、子供たちの意欲を高めようと、朱墨を持って添削したり、背後から筆を執つたりする姿は、ほのぼのとした温かさが感じられた。清書時における真剣味にその成果がはつきりと表れていた。
たとえ技術は未熟であつても、子供の実態をしつかりつかみ、その時間、その時間のねらいを明確にして潔よく臨めば子供たちの力は確実に向上升する。「教育は教師そのものにあり」と言われるゆえんであると思われた。若い先生たちが、それぞれの分野に「出藍のほまれ」とならることを切望している。

住 所 岡崎市養川町東屋敷八
生年月日 昭和十九年三月四日
氏 名 ひらいわ ちひろ





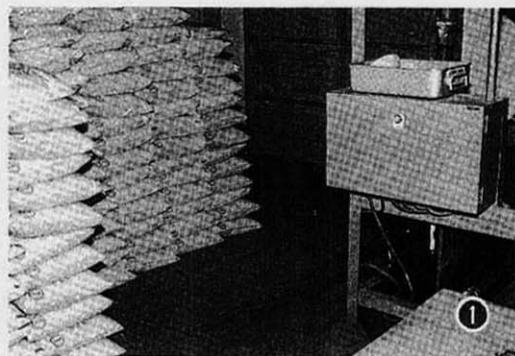
給食のごはんが できるまで

児童・生徒にとって待ち遠しい給食だが、その中でも一番喜ぶのが米飯給食ではなかろうか。

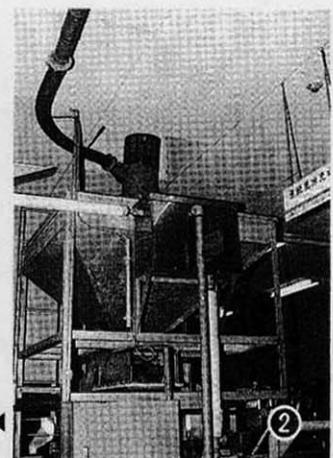
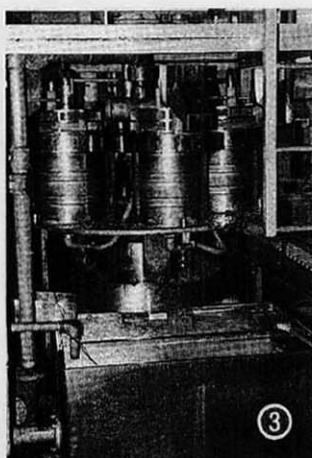
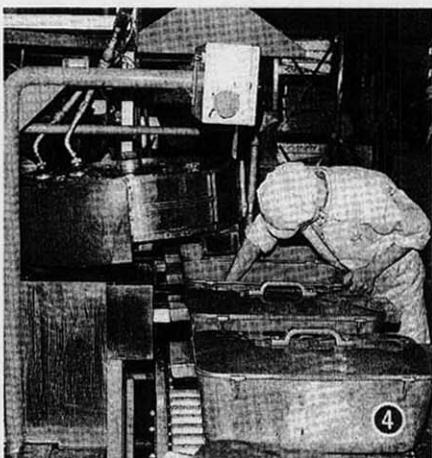
ところで、その御飯がどのようにして作られているのか、それが知りたくて、「オカザキパン」を訪れた。早朝の取材である。

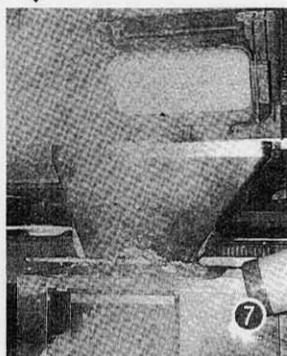
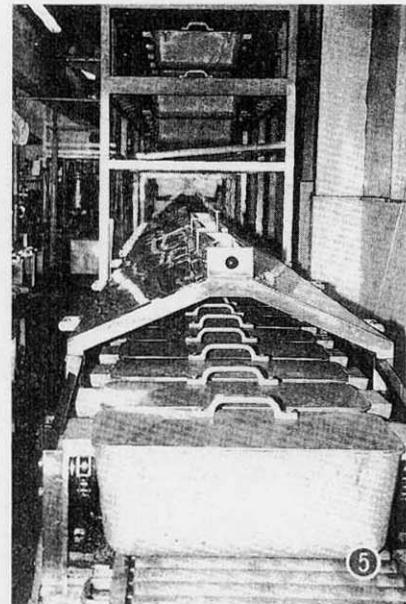
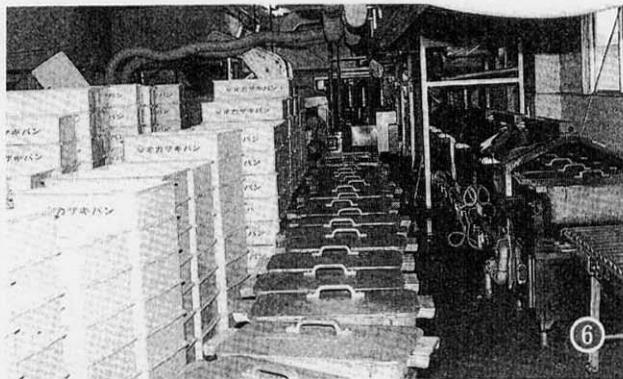
まだ一般従業員は出勤していない時間だが、御飯を作る早番の方々は、もう五時から仕事にかかりていた。

何百人分もの御飯を、大きな釜で一度に炊くのではない。ひとつの釜はせいぜい五十人分程度の容量。その釜がベルトコンベヤーに乗って次々動く。



- ①倉庫の米を「空氣送米機」を使い、工場へ「洗米機」へと送り込む。
- ②送られてきた米を「連続洗米充填機」で容器に一定量ずつ入れる。





③高い水圧をかけて米を洗う。
④洗った米を、「洗浄器」からコンベヤーに乗つて流れてくる釜に入れ、蓋をして次へ送る。

⑤炊いている場所の上段へとコンベヤーで釜を送り込む。米に水をすわせる「浸漬」段階で下から上がつてくる熱を利用

いる間に蒸らされる。その御飯を釜ごと持ち上げ、ひっくり返す。一般家庭では、炊き上がった時にしゃもじでかき混ぜるが、ここでは高いところからひっくり返し、落とすことでも、ぱらぱらにほぐし、空気を混入させることによりおいしくする。

面倒なのが各学級の人数に応じて目方を量りながら入れること。はかりの目盛りを見ながら、文字通りさじ加減をして蓋をかぶせる。午前九時近く、最初のトラックが子どもたちの待つ学校へと向かっていった。

用するためである。上段は「浸漬」中の釜で、手前から前方、その逆と、二段で二方向に動く。手前は火力を段階的に調節した炉を出てきた釜である。

⑥炉から出てきた釜を一定時間蒸すために、長いコンベヤーの上を移動させていく。

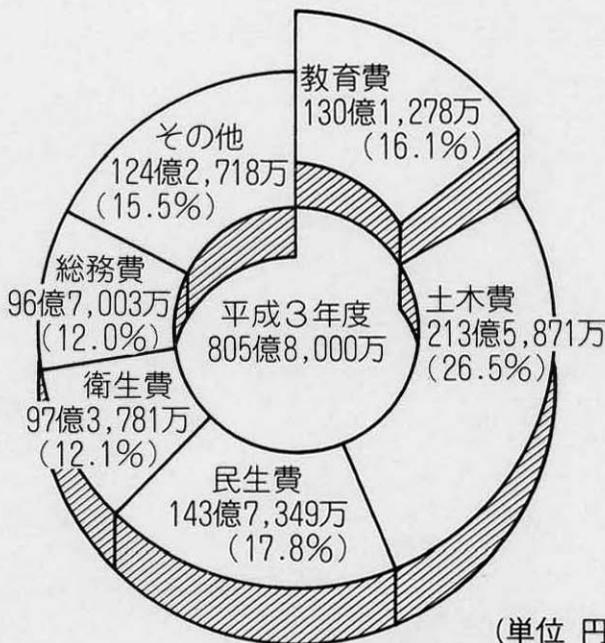
おいしい御飯の香りがたちこめる。

⑦蓋を取つた釜をひっくり返し、下の方でゆっくりとほぐしながら、計量のところへ送る。

⑧学級の人数に応じて一定の量を量つて入れる。左手でコンベヤーのスイッチを操作し御飯を落とす。右手のしゃもじで加減する。

⑨保温ケースに入れて積み出しの場所へ移動させる。

〈一般会計予算〉



“夢と希望に満ちた
香り高い文化をめざして”

岡崎市の教育予算

◆ズームアップ◆

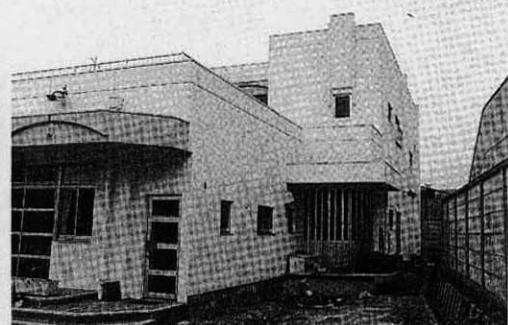
- ①義務教育施設の整備
校舎新築 中学校 二校
校舎改築 小学校 一校
ビル建設 小学校 二校
大規模改築 小学校 二校
- ②教育用備品の充実
- ③新編岡崎市史編さん事業
- ④学校用地取得事業
運動場用地等 二校
- ⑤自然教室推進事業
小・中学校 八校
- ⑥生涯学習データベースシステム
作成調査 (新規)
- ⑦社会教育活動総合事業 (新規)
- ⑧本に親しむみんなのつどい
三河地区集会 (新規)
- ⑨美術館・博物館建設事業
- ⑩国体開催準備事業
(新規)



矢作北小 (平成 2 年度)

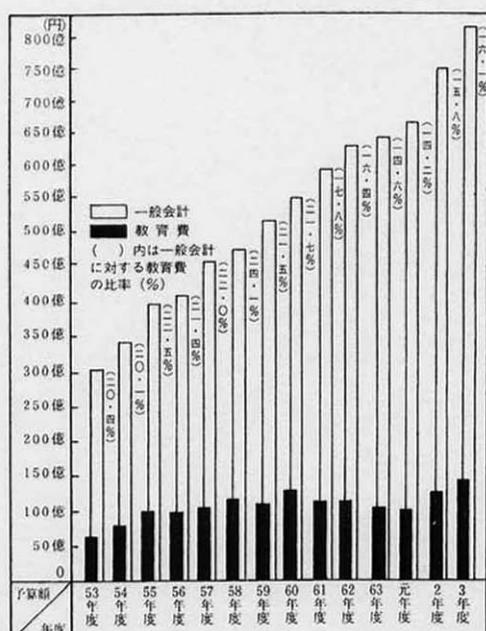


新香山中 (平成 2 年度)

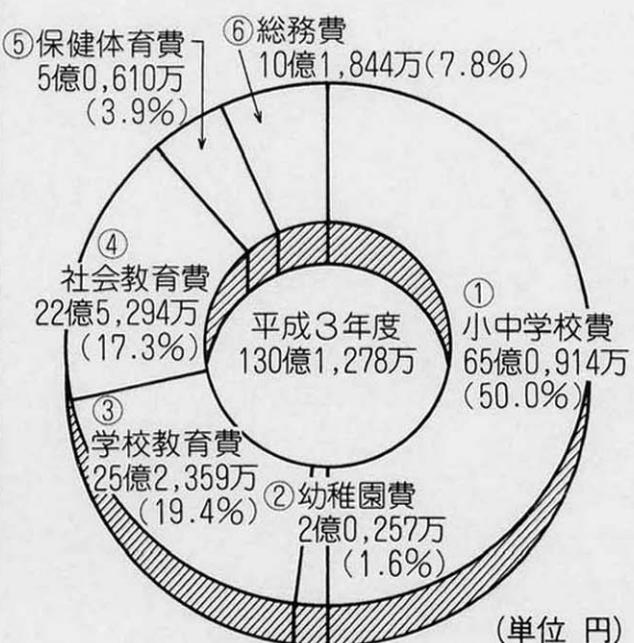


矢作幼 (平成 2 年度)

◆一般会計予算額と教育費の推移◆



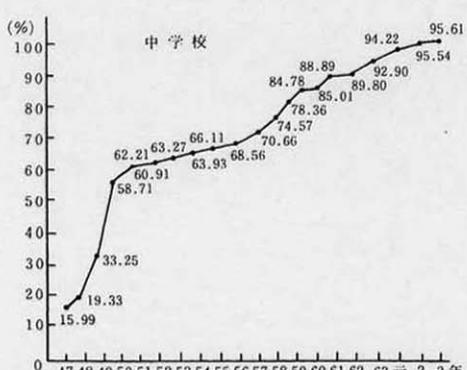
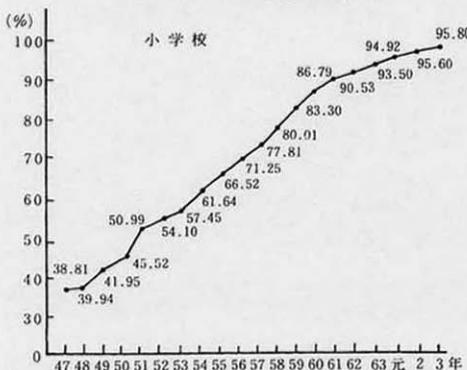
<教育費の内訳>



(単位 円)

◆校舎鉄筋化率の推移◆

(数字は各年5月現在の百分率)



①小中学校費

- 平成3年度義務教育施設整備
- 校舎増改築（矢作北小、北野小）
- 校舎新築（六ツ美北中）
- プール建設（三島小、奥殿小）
- 大規模改修（連尺小、男川小）

②幼稚園費 市立幼稚園3園管理事務経費など

- 自然教室推進事業委託事業（小4校、中4校）
- 英語指導助手招致事業2名
- 登校拒否対策事業委託料（新規）
- ハートピア岡崎運営事業

③学校教育費 学校給食センターの管理運営経費など

- 生涯学習データベースシステム作成調査（新規）
- 社会教育活動総合事業（新規）

④社会教育費 本に親しむみんなのつどい三河地区集会事業（新規）

- 美術館・博物館建設事業（収蔵庫建設、3、4年度継続事業）
- 図書館、美術館の運営

⑤保健体育費 地域文化広場施設整備事業（新規遊具設置）など

- 国体開催準備事業（新規）

⑥教育総務費 日韓ジュニア交流競技会補助金（新規）など

- 新編岡崎市史編さん事業
- 私立幼稚園入園料補助
- 私立高校授業料補助など



一枚詩集で心の交流

福岡小 野田千三子

私が知りたいのは

あなたが
弱い自分 悪い自分を

いかにこまかし
どうつくる

どうつくるつて

いうことでなく……

今年出会った六年生の子供た

ち。緊張がほぐれないせいか、

一ヶ月近く経つのになかなか素

顔を見せてくれない。

子供との心の交流になればと
思つて始めた一枚詩集。それに
私の気持ちを綴った翌日、S子

はこんな詩を書いてきた。

いい子ぶつての私
おりこうでいることが、また

強く見せることがいけないなん
て思つてない。ただ時には、失
敗や間違いを隠さず、ありのま
まの自分を思い切って出してほ
しい。そんな時こそ教師と子供
の心が通い合うチャンスであり、

私が知りたいのも、子供がど
うに自分自身を見つめ直し、
克服し、成長していくかという
ことなのである。

先生、ごめんなさい

また正直になれなかつた。／

本当は練習してくるの／忘れ

たのに／手が挙げられなかつ

た。／みんなにへんな目で／

見られるのがこわくて／先生

にしかられるのが／はずかし

くて／どうしても／手が挙げ

られなかつた。／先生、ごめ

んなさい。／わたし、今日／

二時間、ピアニカの練習して

きます。

S子のばんかいを待つと同時

に、今度はきっと、と期待を寄

せる。

このように心を開き始めた子

いかにこまかし／どうつくる
つて／それはわたしのことだ
つた。／先生の前ではいい子
ぶつて／いない所では／そう
じをさぼり／人の悪口を言つ
ていた。(後略)

供たち。私も自分の素直な気持
ちを、一枚詩集に託す。

私の自信
うまく教える自信は
ありません。

いい学級を作る自信も
ありません。

でも、あなたを好きになる
自信があります。

この学校の
どの先生よりも。

でも、あなたを好きになる
自信があります。

この学校の
どの先生よりも。

でも、あなたを好きになる
自信があります。

この学校の
どの先生よりも。

「完全燃焼したい」そんな最
後の望みを託して、県大会を最
終的に、八月、継走部が発足
した。練習できる期間は、たっ
たの四か月。この短い期間に、
ひとつの部にならなくてはいけ
ない。その上、長距離の練習と
いうのは、ただただひたすらに
走るという単調な練習。その量
は、日に一万メートルを超す。

呼吸が乱れ、今にも倒れそう
な走りをしている者、足を引き
ずりながら走っている者、その
部員たちに、「やめなさい。止まりなさい。
と言葉をかけても、走り去つて
いく。手を引つばつて止めよう
とするが、その手を振りはらつ
ても、走り抜けようとする。
なんとか止め、休むことも練習
のうちなのだからと言ひ聞かせ
とだけ言葉にして涙を流した。
我を待つ友のために

県大会、二年生のアンカーは
ゴールするやいなや、

「先輩に、先輩に、すみません……」

と胸に走った。その姿こそ矢北

中継走部の心そのものであつた。

走る。信じて、ひたすらに。

この地道な努力を厭わなかつた
部員たち。私にとって、何もの
にもかえがたい美しい宝である。

結果は、三位
でも、友のために走ることが
できた私たちは、優勝にも勝る
感動を与えられました。苦しい
練習を乗り越えた者にしか与え
られない、この感動を一生の宝
としていたです。

「友のために走る」ことがで
きた日。最高の日でした。

中継走大会。十五年間の人生の
中で、一番忘れられない日。
「心で走れ」の本当の意味が
分かった日。

離れて走る。十五年間の人生の
うちなのだからと言ひ聞かせ
るが、隙を狙つては、練習を再
開いてしまう。部員たちの、こ
の短期間にかける情熱が伝わつ
てくる。

矢北中 寺井 麻美

十一月二十六日、愛知県長距離
走り大会。十五年間の人生の
中で、一番忘れられない日。
「心で走れ」の本当の意味が
分かった日。

「友のために走る」ことがで
きた日。最高の日でした。



を胸に走つた。その姿こそ矢北
中継走部の心そのものであつた。
走る。信じて、ひたすらに。
この地道な努力を厭わなかつた
部員たち。私にとって、何もの
にもかえがたい美しい宝である。

・表紙写真
・カット
・詩

本宿
藤川
小川
小川
石井
林宰
恵子
明子

岡崎で、放送を利用した最初の始業の合図の設備ができたのは、昭和二十三年度の終わりに建てられた旧香山中学校であつたらしい。それ以前、授業の始めと終わるの合図は、片手で振って鳴らす風鈴や、ここで紹介する半鐘などを利用していた。

この半鐘は、真ちゅうでできており、重さ十キログラム、高さ三十七センチメートル、底面の直径三十七センチメートルの大きさである。

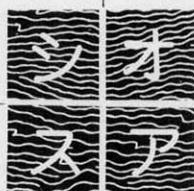
当時は、職員室の入り口付近存されており、外側には「井田町婦人会寄贈」と記されている。

始業の合図は、「チャンチャンチャン……」と続けて鳴らし、終業の合図は、「チャンチャン」と二回鳴らすといつた具合に工夫しているところもあるったようである。

始業の合図は、「おはよう」と何度もあいさつされる仕事の一つかつだ。重要な仕事の一つであった。

新任教師を迎えて、二か月が過ぎた。自分の意のようにな動かない学級の子供たちについての悩みをよく耳にする。そんな時、ペテランの先生の体験談によって、安堵感を漂わせる。若い先生が、悩みを積極的に出し、助言を求めることができる雰囲気づくりに心がけたいものである。

スイカは夏の風物詩。六月号の「オアシス」には少し無理がありそうだ。



推敲に推敲を重ねるこのオアシスだが、なかなかまとまらない。「ス」で始まる言葉を考える。

朝の「おはよう」の一言は大変気持ちが良い。しかし、昼近くになって廊下等で、「こんちは」と何度もあいさつされることは妙な気分だ。不自然だから会話だけにしようとしたところ、「おはよう」も言わなくなってしまった。あいさつ運動も子供の自發的な行動でないとうまくいかないようだ。

スイカが歓送迎会の席に出た。そうだ、スイカが歓送迎会の席に出た。それもそのはず、スイカは夏の風物詩。六月号の「オアシス」には少し無理がありそうだ。

泉



葵中学校

始業の鐘



みちづれ	三浦 哲郎
新潮社	¥1500
主権者はきみだ	森 英樹
岩波ジュニア新書	¥ 600
平安朝の母と子	服藤 早苗
中公新書	¥ 580
量子宇宙をのぞく	佐藤 文隆
講談社	¥ 740

ごみとりサイクル	寄木 勝美
岩波新書	¥580

ごみ問題は、現代社会を象徴するキーワードの一つである。腐臭に囲まれた世纪末を迎えるのか、社会全体の体質改善によって危機を脱することができるのか、二つに一つの選択を迫られている。

本書は、ごみ問題をリサイクルに焦点を当て、地方自治体の創意に満ちた取り組みを紹介している。新しい時代への脱皮の試みは地方からおこっているが、リサイクルによって全てが解決するわけではないことも改めて思はせられる。